

令和7年度 心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）

生徒指導提要の趣旨を踏まえた「これからの生徒指導」

11月10日（月）、生徒指導担当教員を対象に、「心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）」を実施しました。当日は、国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター フェロー 高橋 典久様を講師にお迎えし、生徒指導提要の要点やこれからの生徒指導に求められること等について、明確に御教授いただきました。

※【図1】から【図3】は、国立教育政策研究所 高橋 典久フェロー 会議講演資料より作成

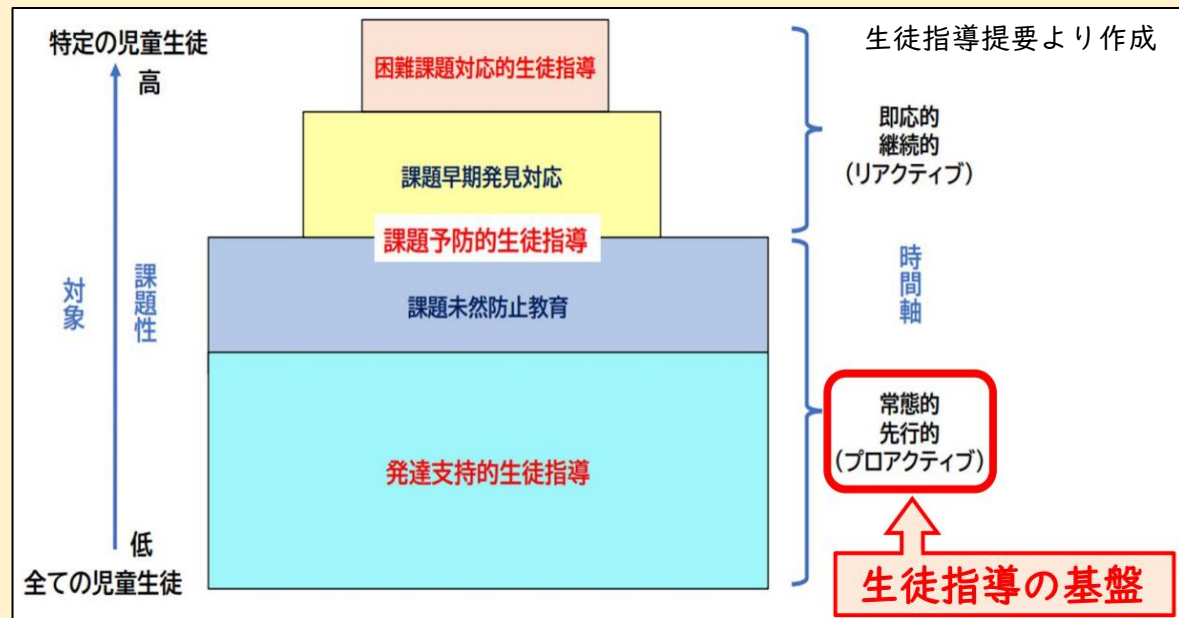
① 生徒指導の捉え

生徒指導とは、**児童生徒が社会の中で自分らしく生きることが**できる存在へと、**自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動**であり、生徒指導上の課題に対応するために必要に応じて指導や支援を行う働きかけである。 生徒指導提要より

「生徒指導」という言葉の響きから「生徒指導＝事象対応」と捉えがちですが、生徒指導は、児童生徒の下記の発達を含む包括的なものです。

- ・**心理面**（自信・自己肯定感等）
- ・**学習面**（興味・関心・学習意欲等）
- ・**社会面**（人間関係・集団適応等）
- ・**進路面**（進路意識・将来展望等）
- ・**健康面**（生活習慣・メンタルヘルス等）

また、児童生徒の課題への対応を時間軸や対象、課題性の高低という観点から類別することで、下記のように構造化することができます。（2軸3類4層構造）



② これからの生徒指導

特定の児童生徒に焦点化した「事後」指導・援助

全校体制で取り組む「日常的」支援に基づく生徒指導

「させる」生徒指導から「支える」生徒指導への転換

つまり プロアクティブな生徒指導の充実を図る

リアクティブな生徒指導とあわせてプロアクティブな生徒指導を展開することで、生徒指導上の諸課題における**個別支援と未然防止の両立に取り組む**ことができます。

○不登校

不登校である子どもの社会的自立に向けた支援とともに、**新たな不登校を生まない**取組が必要である。【図1】

目的 (不登校児童生徒数の減少)	取組の対象	主たる取組
「継続数」を減少させる	・前年度、不登校であった児童生徒 ・年度途中で不登校になった児童生徒	困難課題対応
「新規数」を減少させる	兆しの見えた児童生徒 前年度、不登校ではなかったすべての児童生徒	早期発見対応 未然防止 発達支持

児童生徒にとって学校が下記のような場となっているかを教職員が自らの教育活動を問い直す。

- ・自己が大事にされる
- ・心の居場所
- ・絆づくりの場
- ・大切な意味がある

魅力ある学校が実現できているか

○いじめ

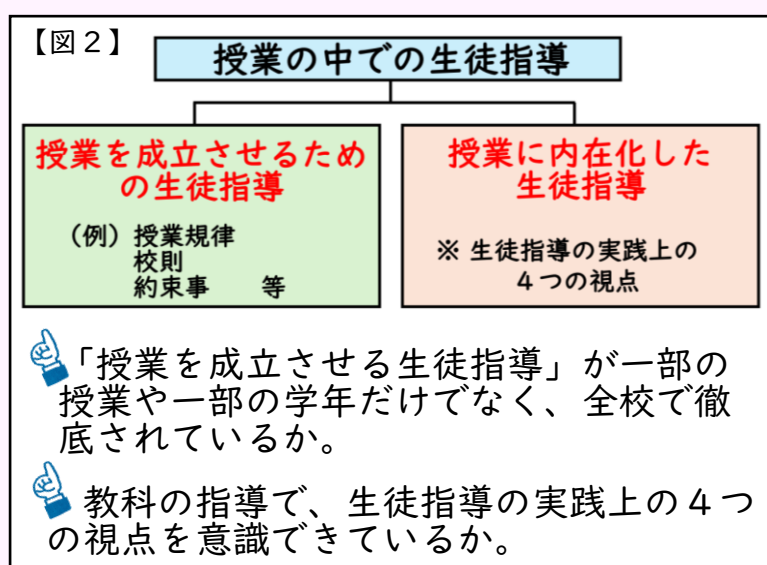
「いじめられる子ども（被害者）を守る」視点とあわせて、「**すべての子どもがいじめをしない人に育つことを支える**」視点を持つ。

③ 教科の指導と生徒指導の一体化

Q 魅力ある学校をどこで実現するのか？

- ・新たなフィールドを開拓することは、働き方改革の観点からも難しい…。
- ・既存の教育活動の在り方を見直してはどうだろう…。
- ・児童生徒が学校生活の中で最も多くの時間を割いているのは…。

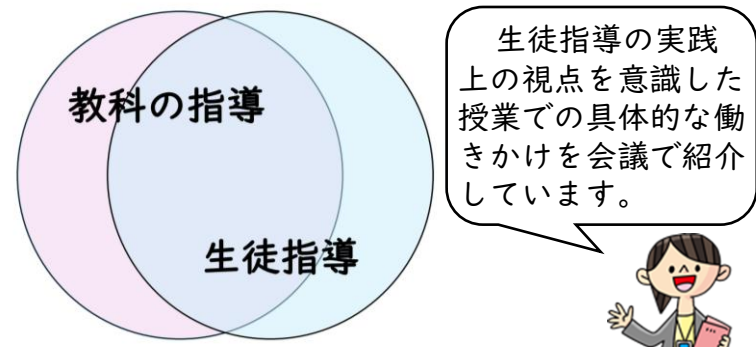
日々の授業（教科の指導）



○生徒指導の実践上の4つの視点

- ・自己存在感の感受
- ・共感的な人間関係の育成
- ・自己決定の場の提供
- ・安全・安心な風土の醸成

【図3】教科の指導と生徒指導の関係イメージ



◇◆◇ 参加者の振り返り ◇◆◇

- ・プロアクティブな生徒指導が生徒指導の基盤にあたり、それは新たに何か取組をするのではなく、教科指導の中で実践していくことで、発達支持的生徒指導の「すべての児童生徒が対象」、「全校体制で日常的に取り組む」というポイントをクリアすることがよく分かった。一部の教員ではなく、多くの教員で実践できるところに強みを感じた。
- ・校内の授業研究会で、生徒指導の実践上の視点から授業を考える時間をとったり、振り返ったりできるように働きかけを行いたい。また、授業を成立させる生徒指導を全校で取り組めるように、授業におけるルールを確認したり、教師が意識すべき事柄を可視化したりしたい。